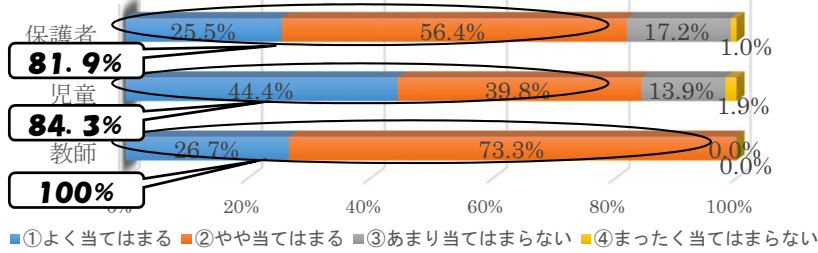
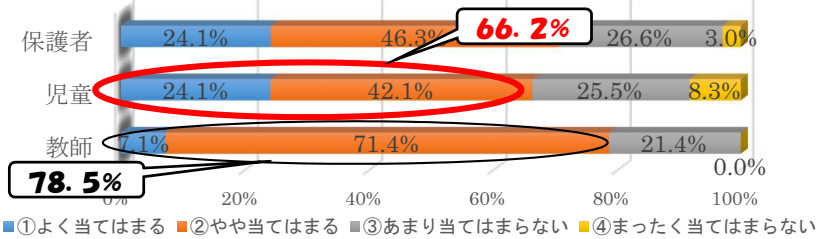


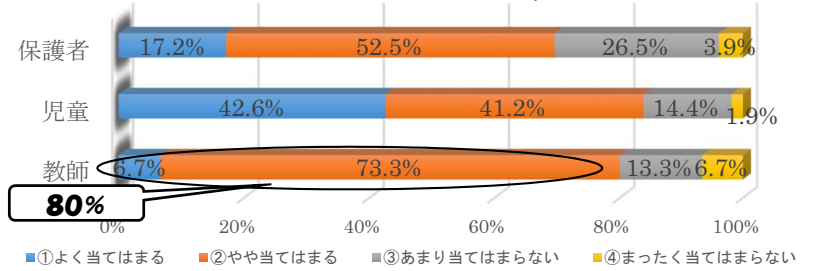
笑顔で通える学校 (資料3)



信頼を基調とした集団づくり (資料4)



子どもの自主活動の活性化 (資料5)



項目「きたえる」では、「**笑顔で通える学校**」(資料3)への取り組みに対し、「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した教員は100%、児童84.3%、保護者81.9%となっている。「互いに尊重し合い、いじめのない学級づくりを進める」(資料4)ことには78.5%の教員が、また、「主体的活動したり、企画・運営したりできる場の工夫」(資料5)については、80%の教員が概ねできていると回答していることは、本年度の重点努力目標「自他肯定感を高める集団づくり」に、教員が真摯に取り組んでいることの現れであり、大変うれしいことである。しかし、「自分にはよいところや頼りにされているところがある」(資料4)に対し、「よく当てはまる」「やや当

てはまる」と答える児童は66.2%に留まり、教員が重点的に取り組んでいるにもかかわらず、児童の自己評価は低い結果となっている。取り組みの見直しを図ると共に、授業づくりと同様、どんな力を育もうとしているのかを児童にも意識させ、達成感や成就感を味わわせることで意識が高まるようにしたい。